科目名	心理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	内藤　みなみ	実務者経験	臨床心理士・公認心理士として、クリニック・大阪府立学校スクールカウンセラーとして勤務の後、大学にて学生相談センターで業務に就かれている。

学習内容	救急救命士は緊迫した状況の中で冷静な判断を求められることが多い。人のこころを理解することは職業場面だけではなく、生きていく上でも自己理解や他者理解につながり、有意義であると考えられる。人のこころをさまざまな視点から学び、理解を深める。
到達目標	①心理学に関する基本的な仕組みや働きを修得する ②自己理解や他者理解につなげる

準備学習 時間外学習	配布プリントでの復習
使用教材	配布プリント
留意点 備　考	ワークを通して、体験的な学びが修得できると望ましい

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	「こころ」とは何か 心理学で何を学ぶのか	「こころ」の歴史、「心理学」の成り立ちについて説明する。 人の感覚・知覚について紹介し、日常場面での物事のとらえ方を学ぶ。
2	心の働きについて ―「学習」を中心に―	「学習」にはさまざま種類がある。 人が物事を学び、修得する経緯について理解を深める。
3	自分らしさって何？ どうやって決まるのか	「自分らしさ」とは何か。 性格という視点を中心に、自分について理解を深め、他人との関わりについて考える。
4	人と人、集団と集団に 生まれる心理学とは	社会には個人、集団などさまざまな対人関係がある。 対人関係の中で生じる心理的現象について紹介し、人の行動について学ぶ。
5	人はどのように 発達・成長するのか	人は一生涯、発達し続けると言われてる。 各年代の心理的特徴や心理的課題について理解し、自分にとっての「成長」について考える。
6	ストレスとセルフケア	ストレスについて学び、セルフケアについて考える。 震災場面のストレスについても説明する。
7	心が持つ自分を守る 機能	心の不調について学び、それを防ぐための心の機能について紹介する。
8	最終講義試験	試験

科目名	保健・体育学Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	演習
【英】	Health & Physical Education			総時間数	20	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	木曜日	時　限	5･6

担当教員	植田　英樹	実務者経験	プロバスケットボールチーム西宮ストークス元トレーナー 柔術環太平洋大会Rob William選手金メダル取得時帯同トレーナー ルークス芦屋クリニックパーソナルトレーナー NSフィットネスパーソナルトレーナー 関西健康科学専門学校　非常勤講師（2016～）

学習内容	体力測定と各測定種目に対する自主トレーニングの理論と実践。
到達目標	就職に関する体力試験に向けて必要な心肺機能、柔軟性、筋力（瞬発力、筋持久力）、アジリティ能力の獲得、又はその能力向上の為の理論や方法について習得する。現時点での各自の体力レベルの把握。

準備学習 時間外学習	授業で学んだ事を各自の時間に自主的にトレーニングをする事が必要。
使用教材	なし
留意点 備　考	なし

成績評価	1stテスト10%＋シャトルラン10%＋2ndテスト40%＋伸び率20%＋補正値20%＝100%とする。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	体力テスト(1st) ①	文部科学省の新体力テストを参考に体力テスト実施。 握力（スメドレー式）。　体前屈ｘ２。　　上体起こし30秒ｘ１。
2	マシン使い方①	トレーニングルームのマシンの使い方の説明。 Q&A。　　セルフストレッチ。
3	体力テスト(1st) ②	懸垂。　腕立て伏せ（顎を床につける）。（立ち幅跳び）
4	マシン使い方②	マシンの使い方、トレーニング方法の詳細を追加説明。　Tabata、懸垂対策等。
5	体力テスト③ トレーニング方法基礎	反復横とび（100ｃｍ間隔）20秒ｘ２。　　２０ｍシャトルランｘ１。 基礎的なトレーニングの知識と方法の説明。
6	トレーニング理論と実践	効く筋トレ（Concentric　Contraction, Eccentric Contraction） 腕立て伏せ、スクワットの正しいフォーム等について。
7	体力測定(2nd)	文部科学省の新体力テストを参考に体力テスト実施。 握力（スメドレー式）。　体前屈ｘ２。　　上体起こし30秒ｘ１。
8	体力測定(2nd)	懸垂。　腕立て伏せ（顎を床につける）。（立ち幅跳び）
9	体力測定(2nd)	反復横とび（100ｃｍ間隔）20秒ｘ２。
10	体力測定(2nd)	Q&Aと希望するトレーニングやその説明やQ&Aを実施。　リクリエーション種目。
11	体育大会	1年次体育大会
12	体育大会	〃
13	体育大会	2年次体育大会
14	体育大会	〃
15	体育大会	3年次体育大会
16	体育大会	〃

科目名	解剖学・生理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Anatomy･Physiology			総時間数	46	単　位	3
学　年	1	学　期	前期	曜　日	火木	時　限	5･6

担当教員	稲垣　忍 山本貴啓	実務者経験	稲垣　忍:10年以上、大学で医療従事者の専門基礎教育に携わる 山本貴啓:理学療法士として、総合病院、介護保険施設等で実務経験あり

学習内容	細胞から組織、器官系、固体としての人体に至る構造と機能について学習し理解する。
到達目標	救急救命士として必要な解剖生理の基礎知識が理解でき、適切な解剖学用語と生理学用語を用いて具体的に説明できる。

準備学習 時間外学習	レポート課題等
使用教材	救急救命士標準テキスト（上巻）・ヒューマンボディ
留意点 備　考	

成績評価	終講時の筆記試験で60%以上正解すること

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	2体表からみる人体	生命現象と人体について学習・理解する
2	1人体構成要素	人体の構成要素である細胞や組織・器官について学習・理解する
3	2体表からみる人体	
4	5 呼吸系	呼吸と呼吸運動の仕組みとガス交換について学習・理解する
5	6 循環系	心臓と血管の働きや調節の仕組みについて学習・理解する
6	3神経系	神経の興奮と伝導・末梢神経系について学習・理解する 中枢神経系と脳血管について学習・理解する
7	8 泌尿系	尿の生成と排泄のための構造と仕組みについて学習・理解する 生物の存続の為の構造や機能・発生について学習・理解する
8	7 消化系	消化器の構造と役割について学習・理解する
9	12 筋･骨格系	運動器の構成や構造・仕組みについて学習・理解する
10	10 内分泌系	特に植物機能を制御し維持する液性分子について学習・理解する
11	11 血液･免疫系	血液の構成と維持・生体防御に関わる免疫の仕組みについて学習・理解する
12	解剖生理試験	

科目名	生化学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Biochemistry			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	前期	曜　日	水	時　限	6

担当教員	福岡　知也	実務者経験	医学博士(生理系) 1973-2005まで大阪大学にて研究助手

学習内容	生化学では、ヒトの生命現象を元素・分子レベルでの化学的領域と、細胞・個体レベルでの生物学的領域を統合的に幅広く学習する。それにより疾患の成立原因と回復過程を生化学的に理解し、救命救急士としての基礎的知識の習得を目指す。
到達目標	生命維持のための代謝、代謝異常(糖代謝異常，アミノ酸代謝異常，脂質代謝異常）とその疾患について理解できる。ビタミン異常，そのほか電解質異常，栄養障害など理解できる。

準備学習 時間外学習	生物と化学に関する基礎的な事項の予習が必要。復習プリントを用いた授業内容の復習を行う。
使用教材	救急現場の救急医療（薬理学・生化学・栄養学）荘道社、配布プリント
留意点 備　考	救急救命士標準テキスト　11版

成績評価	期末試験100%で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	生化学１	総論：生命現象の化学 生体構成成分と代謝，異化系と同化系が説明できる。
2	生化学２	細胞 細胞内小器官の構造と機能が説明できる。
3	生化学３	タンパク質代謝 アミノ酸代謝、窒素平衡とアンモニアの運命、尿中の窒素化合物とその異常について説明できる。
4	生化学４	糖質代謝 糖の種類、解糖反応とエネルギー産生系、糖質代謝障害について説明できる。
5	生化学５	脂質代謝 脂質の種類、脂肪の吸収とβ酸化、脂肪肝と動脈硬化について説明できる。
6	生化学６	酵素、ビタミン 酵素の種類と働き、糖質・脂質・タンパク質代謝異常について説明できる。
7	生化学７	ホルモンと血液 血球細胞とその働き、ホルモンの種類やその働きと疾患、電解質異常について説明できる。
8	試験	

科目名	病理学・法医学(病理学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pathology			総時間数	18	単　位	法医学とあわせて2
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	酒井　学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院検査部にて臨床検査業務を担当している。令和5年4月1日から天理大学医療学部臨床検査学科所属、教育に携わっている。

学習内容	救急救命士に最低限必要となる基礎医学分野の病理学を学ぶ。
到達目標	臨床の現場において必須となる病理学の知識の習得を目指す。

準備学習 時間外学習	病理学と共に解剖学と生理学の平行した学習が必要である。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）　、配布プリント
留意点 備　考	毎授業後に小テストを実施。

成績評価	終講義テストを100%で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	病理学とは？、細胞傷害について	病理学とは何かを説明できる。
2	病理学とは？、細胞傷害について	細胞傷害の原因と関連疾患について説明できる。
3	先天異常、循環障害について	先天異常原因と関連疾患について説明できる。
4	先天異常、循環障害について	循環障害の原因と関連疾患について説明できる。
5	炎症、免疫異常について	炎症との原因と関連疾患について説明できる。
6	炎症、免疫異常について	免疫異常の原因と関連疾患について説明できる。
7	感染症、腫瘍について	感染症との原因と関連疾患について説明できる。
8	感染症、腫瘍について	腫瘍の原因と関連疾患について説明できる。
9	試験	期末テスト

科目名	病理学・法医学(法医学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Forensic Medicine			総時間数	14	単　位	病理と合わせて2
学　年	1	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	石田　季子	実務者経験	2016年4月より 大阪大学法医学教室特任助教、大阪府監察医事務所監察医として実務経験

学習内容	人体が死によってどのように変化するのか、原因ごとにどのような所見が見られるのかを学習する。また、死にまつわる公衆衛生的事項についても概説する。
到達目標	疾病や損傷などが人体の限界を超えて作用した、普遍的で不可逆で不可避な状態が死であるため、医療の場においてはいつでも遭遇しうる。法医学的知識の修得により、プロフェッショナルとして死者を遇することができるようになることが目標である。

準備学習 時間外学習	テキストを読んでおくこと。解剖学・救急医学などの復習がなされているとなおよい。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、そのほかに適宜ハンドアウトを配布する。
留意点 備　考	科目の性質上講義資料や話題にセンシティヴな事柄が含まれるため、学生にも医療人としての倫理と守秘を求める。

成績評価	終講義試験により評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	死とはなにか	死の定義や統計に見られる死の状況を知り、現代日本における死とのかかわり方を学ぶ
2	死体現象	生体にはみられず、死体にのみみられる所見について学ぶ
3	内因性急死・中毒	疾病による死の中でも急死、薬毒物による中毒について学ぶ
4	損傷	人体が外部からの力を受けることで発生する傷害と、それにより引き起こされる結果を学ぶ
5	環境と死	温度変化など、周囲の環境による死や大規模災害による死について学ぶ
6	試験	
7	行政解剖	行政解剖見学

科目名	微生物学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Microbiology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	酒井　学	実務者経験	平成18年8月1日から平成20年10月15日まで国立法人神戸大学医学部附属病院中央検査部、平成20年10月16日から現在まで国立法人大阪大学歯学部附属病院検査部にて臨床検査業務を担当している。令和5年4月1日から天理大学医療学部臨床検査学科所属、教育に携わっている。

学習内容	救急救命士に最低限必要となる基礎医学分野の微生物学を学ぶ。
到達目標	臨床の現場において必須となる微生物学の知識の習得を目指す。

準備学習 時間外学習	前期の生理学や病理学の復習が必要である。
使用教材	テキスト（救急救命士標準テキスト11版）出版社（へるす）、配布プリント
留意点 備　考	毎授業後に小テストを実施。期末テストを100%で評価する。

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	微生物とは？、感染症について	微生物とは何かを説明できる。
2	微生物とは？、感染症について	感染症の原因と関連疾患について説明できる。
3	感染予防について	微生物の取り扱いと使用する器具の説明ができる。
4	感染予防について	微生物の取り扱いと使用する消毒液の説明ができる。
5	微生物各論（細菌、ウイルス、寄生虫）	各種微生物（細菌、ウイルス）に関連する疾患について説明できる。
6	微生物各論（細菌、ウイルス、寄生虫）	各種微生物（寄生虫）に関連する疾患について説明できる。
7	まとめ	これまでの授業内容の復習。
7.5	試験	期末テスト

科目名	薬理学			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Pharmacology			総時間数	30	単　位	2
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月曜日	時　限	5,6

担当教員	岩木一巳	実務者経験	2011年度～2018年度　武庫川女子大学・薬学部非常勤講師 2014年度～2021年度　城南女子短期大学・現代生活学科非常勤講師 2014年度～　東洋医療専門学校・救急救命士学科非常勤講師

学習内容	薬理学とは薬物が身体に及ぼす影響（主作用・副作用）やその作用発現メカニズムを研究する学問であることを学ぶ。 救急救命士を目指す者として、取り扱いに関与する薬物のみならず、医療の分野で広く用いられる「薬」の知識を基礎から応用まで幅広く学習する。
到達目標	国家試験合格のレベルに留まらず、薬理作用、薬物療法についての一般的基礎知識を広く修得させ、救急現場で専門職としての実力を発揮できる救急救命士を育成する。

準備学習 時間外学習	事前および時間外の学習として、教本、資料概要プリント、補足説明資料等に目を通し、興味を持ったことや分からないところはインターネットや関連参考書を用いて調べる等、薬の作用に関する予習、復習を行うこと。
使用教材	テキスト（救急救命士標準テキス第11版ト：へるす出版） 理解力向上のため、自作の講義概要プリント、補足説明資料、確認問題を配布。
留意点 備　考	必ず、毎回の授業後に確認問題を用いた理解度をきっちり自己評価すること、さらに、教本や配布資料を読み返して、授業内容を振り返ることが望ましい。また、必要に応じて、参考書（救急現場の救急医療：荘道社、新ステップアップ 救急救命士国家試験対策 薬理作用：へるす出版）にも目を通すこと。

成績評価	期末の筆記試験（資料持ち込み不可）で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	薬物総論	薬理学と薬物、医薬品に関する説明、薬機法、薬理作用の発現様式、保存と保守管理
2	薬理作用の作用機序	薬物が作用を発揮する仕組み
3	薬物の剤型、体内濃度	薬物の投与剤型、薬物の血中濃度・体内濃度（薬物血中濃度時間曲線）
4	投与量と作用の関係、投与経路	用量作用関係（用量－作用曲線）、投与経路、、各投与方法の利点と欠点
5	薬物の体内動態(1)	薬物動態（ADME）、吸収・分布・代謝・排泄の詳細
6	薬物の体内動態(2)	上記内容の続き、薬物動態の変動要因
7	薬物の有害作用(1)	薬物使用時の各種有害作用についての説明
8	薬物の有害作用(2)	反復投与に関係する問題点、研究開発段階で得られる有害情報
9	救急救命士が取扱に関与する薬物(1)	輸液・輸血製剤
10	救急救命士が取扱に関与する薬物(2)	アドレナリン、乳酸リンゲル液、ブドウ糖
11	アドレナリンと自律神経系用薬(1)	アドレナリンを中心としたカテコールアミンの作用
12	アドレナリンと自律神経系用薬(2)	自律神経系の働きと作用薬
13	注意を要する常用薬(1)	慢性疾患薬など注意を要する常用薬
14	注意を要する常用薬(2)	上記内容の続き
15	最終講義	講義内容全般（No.1～14）の振返り、重要ポイントの説明
16	期末試験	自習時間を設けた後に筆記試験（50分）を実施

科目名	社会保障・社会福祉			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Social Security･Social Welfare			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	5･6

担当教員	中川　るみ	実務者経験	社会福祉士　1993-現在、ソーシャルワーカーとして実務を経験 社会福祉事務所所長

学習内容	社会福祉と医療、社会保障の関連について学ぶ 社会福祉の展開、低所得者対策、障害者福祉対策、年金制度について
到達目標	救急救命士に必要な社会福祉と医療、社会保障の関連について理解できる。

準備学習 時間外学習	授業で習ったことの復習をしておく。 重要なキーワードについてまとめていく。練習問題の実施。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	社会保障について	各社会保険の種類（人口資料）
2	〃	〃
3	社会保険について	理念と仕組み等（いのち）
4	〃	〃
5	社会福祉について	制度と運用（ヘレン・ケラー）
6	〃	〃
7	まとめ	これまで習ったことの再確認
8	終講義試験	

科目名	救急医療　Ⅰ医学概論			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Philosophy			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	前期	曜　日	月水	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	救急医学の本質・医学の発達、生命倫理と医の倫理などの基本的な考え方を学ぶ
到達目標	救急隊員としての社会的な責務について具題的に列挙できる。 日常的な業務について倫理的な意義を列挙できる。 業務の内容について傷病者・家族に分かりやすい説明が出来同意を得ることが出来る。

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習及び重要キーワードについてまとめておく。
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版、プリント資料
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	１．医学と歴史	学問の本質と医学、自然科学と人文科学、自然科学的思考、医学概論という学問、医療と医学の歴史的背景、医学の体系化、現代の医学系列、医療と病気
2	２．救急医療と救急医療体制	救急医療、救急医学とは、現代救急医療体制の概略、救急医療の対象、病院前救護とは、救急医療を医学的に保障するための構造、救命士業務の拡大と高度化、救命士の役割、救命士の責任など
3	３．医の倫理	医療者の倫理と生命倫理、医療者倫理の歴史、Ⅱ．生命倫理、医学進歩と生命倫理、「生活の質」と「生命の質」、人の死に関する倫理論議とLiving will、病院倫理規定と倫理委員会、厳格になったInformed Consent、終末期医療、尊厳死と安楽死、尊厳を保持した死を実施する場面について
4	症例について	救急医療汎用専門英語、スライドを見ながら症例について学ぶ
5	まとめ	テスト範囲の総まとめ
6	終講義試験	

科目名	救急医療　Ⅱ病院前救護			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	救急医療の意義や救急医療体制、災害医療、メディカルコントロール、プレホスピタルケアとは何かを理解する。
到達目標	・現在の救急医療体制について説明できる。・災害医療特有の救急活動、行動規範について学ぶ。・最新の救急蘇生法を習得する。 ・病院前救護、メディカルコントロールの考え方につき学ぶ。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	救急医療体制	病院前医療、令和元年度版　救急・救助の現況
2	救急医療体制	救急医療システム（一般、周産期、精神科、小児救急医療体制）、救急医療情報（救急医療情報センター、救急安心センター）
3	災害医療体制	災害の概念、多数傷病者に対する対応、トリアージについて
4	災害医療体制	災害に関連する法的骨格は、特殊災害とは
5	病院前医療体制	救命の連鎖、救急蘇生法（ガイドライン2015）について、メディカルコントロールとは
6	試験	終講義試験

科目名	救急医療　Ⅲ救急活動の基本			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Emergency Medical Treatment			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	期間中随時	時　限	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	金村　諭司		32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急救命士として、消防機関における救急活動の基本及び流れを学習する。
到達目標	救急救命士に関連する法令、救急救命士の役割や責任を理解した上で、通信指令室の役割や救急活動の流れを理解し説明できる知識を身につける。また、救急救命士としての生涯教育についても理解し説明できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの配布
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版（へるす出版）　　PPT資料
留意点 備　考	

成績評価	五肢択一若しくは択二の問題25問の筆記試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	消防機関における救急活動の流れ	救急業務とは何か。その定義、基本原則及び対象等を理解する。
2	消防機関における救急活動の流れ	救急活動の基本（覚知から帰署後の書類作成まで）を理解しイメージする。
3	救急救命士の役割と責任	救急救命士の役割と責任を理解しイメージする。
4	救急救命士に関連する法規	救急救命士に関する法規、消防関係法規等を理解し、消防の職務をイメージする。
5	救急救命士の養成と生涯教育	救急救命士の養成と生涯教育について理解しイメージするとともに、救急救命士の将来について考える。
6	まとめと試験	

科目名	救急医療Ⅰ(医用電子工学)			必修/選択	必須	授業形式	講義
【英】	Medical Electronic Engineering			総時間数	12	単　位	救急医療 すべてで3
学　年	1	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5

担当教員	藤江　建朗	実務者経験	約14年臨床工学技師として病院での経験

学習内容	救急分野で使用されるME機器の基本原理・基本操作・安全性について学ぶ
到達目標	・医用機器の特性について理解でき，安全に使用する事とは何か，について理解できる. ・救急救命士が使用するであろう医用機器，特に救急車に搭載されている人工呼吸器，モニター，半除細動器の原理，使用方法，使用上の注意点について理解することができる.

準備学習 時間外学習	講義で学んだことの復習
使用教材	プリント資料
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	医療機器の特性，故障率について理解する	板書とテキストを中心に講義を進めていく. 写真や動画など，必要に応じて，適宜スライドを使用する.
2	モニターに表示される心電図，血圧，SpO2，ETCO2の計測原理，アラームの考え方について理解できる.	板書とテキストを中心に講義を進めていく. 写真や動画など，必要に応じて，適宜スライドを使用する. また，必要に応じて，SpO2センサを使用して，原理について理解を深める.
3	除細動の必要な不整脈が理解でき，細動と頻拍の発生，除細動の原理，除細動を行う時の注意点について理解することができる.	板書とテキストを中心に講義を進めていく. 写真や動画など，必要に応じて，適宜スライドを使用する. また，必要に応じて，AEDパッドを使用して，貼付場所や貼付時の注意点，除細動が有効に行える場所についても理解できるように進めていく.
4	人工呼吸器を使用する目的，人工呼吸器の原理，使用方法，設定の意味，モード，使用上の注意点が理解できる.	板書とテキストを中心に講義を進めていく. 写真や動画など，必要に応じて，適宜スライドを使用する. また，実際の人工呼吸器回路を用いて，高圧･低圧アラームの考え方を理解する.
5	人工呼吸器を使用する目的，人工呼吸器の原理，使用方法，設定の意味，モード，使用上の注意点が理解できる. また、酸素ボンベの取り扱いについて理解する。	板書とテキストを中心に講義を進めていく. 写真や動画など，必要に応じて，適宜スライドを使用する. また，実際の人工呼吸器回路を用いて，高圧･低圧アラームの考え方を理解する. また、酸素ボンベの取り扱いについて理解でき、残量計算や交換方法について理解する。
6	試験	

科目名	観察・判断			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Observation･Decision			総時間数	20	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急患者に対しての全身および局所の観察、緊急度重症度の判断とその対応を習得。
到達目標	適切な観察は、その後の適切な判断・処置には欠かせないものであり、それが重症度緊急度判断、病院選定、患者の予後に直接かかわってきます。適切な観察をするための方法とそれによって診られる徴候の意味が理解できることを目標とします。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版　及びプリント資料など
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	傷病者の観察	・観察の目的と意義、観察の方法・全身状態の観察
2	傷病者の観察	・バイタルサイン、外見、気道、呼吸、循環、神経の各所見とその意味について学習
3	傷病者の観察	・局所の観察
4	傷病者の観察	・皮膚、頭部・顔面・頸部、胸部、腹部、四肢の各所見とその意味について学習
5	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
6	傷病者の観察 重症度緊急度	・緊急度・重症度判断とその意義について学習
7	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター　・カプノメーター　・聴診器　・血圧計　・心電図モニター　・体温計　・血糖測定器）
8	傷病者の観察	・資器材による観察（・パルスオキシメーター　・カプノメーター　・聴診器　・血圧計　・心電図モニター　・体温計　・血糖測定器）
9	まとめ	・まとめ（国家試験問題）
10	試験	・終講義試験

科目名	処置			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Treatment			総時間数	32	単　位	2
学　年	1	学　期	後期	曜　日	火	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	救急救命処置ならびに在宅療養者に対する処置について、その概念、目的、適応、手技、評価、合併症、留意点などを理解し、実施できるようになる。
到達目標	①各救命救急処置の目的、適応、禁忌、手技、合併症について学習する。 ②在宅療法中の傷病者に対し、発生し得る急性の問題点につき、その対処法を学習する。 ③傷病者に対する安全で確実な搬送法について学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ第11版
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・処置の目的と意義　・気道確保　（用手的、エアウェイ）　・気道異物除去（用手的、器具）
2	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・口腔内吸引　・声門上気道デバイスを用いた気道確保（LMA, LT,他）
3	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・気管挿管・気道確保のデモンストレーション
4	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・気管吸引
5	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・酸素投与（カニューレ、マスク、他）と合併症
6	救急救命士が行う処置（呼吸関連）	・人工呼吸（呼気吹込み、BVM、人工呼吸器）
7	救急救命士が行う処置（循環関連）	・胸骨圧迫（用手的、自動心マッサージ器）
8	救急救命士が行う処置（循環関連）	・除細動（マニュアル、半自動式、AED）
9	救急救命士が行う処置（循環関連）	・静脈路確保と輸液
10	救急救命士が行う処置（循環関連）	・各種薬剤の投与（アドレナリン、自己注射用アドレナリン、ブドウ糖）
11	救急救命士が行う処置（その他）	・体位管理（種類・適応・方法）　・体温管理（保温、冷却）
12	救急救命士が行う処置（その他）	・止血（直接圧迫・止血点圧迫・止血帯止血法）　・創傷処置
13	救急救命士が行う処置（その他）	・固定（種類、方法）
14	救急救命士が行う処置（その他）	・産婦人科領域の処置
15	救急救命士が行う処置（その他）	・在宅療法中の傷病者の処置（在宅酸素療法、在宅人工呼吸、気管切開、植込み型ペースメーカー、経管栄養、血液透析、腹膜透析、尿道カテーテル、人工肛門）
16	救急救命士が行う処置（その他）	・傷病者搬送
17	まとめ	・処置まとめ
18	試験	・終講義試験

科目名	検査学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Clinical Examination			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	朝日　佳代子 兒嶋　嵩 笹井　正思	実務者経験	【朝日　佳代子】 1994年4月～　大阪大学医学部附属病院　臨床検査部に所属 日常業務にて生理検査担当、当直業務にて輸血・血液検査経験 【兒嶋　嵩】 2013年4月～2015年3月　大阪大学医学部附属病院　医療技術部検査部門に所属 2015年4月～現在　大阪大学医学部附属病院　高度救命救急センターにて救急検査業務に従事 【笹井　正思】 1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務し放射線診療に従事、現在に至る。

学習内容	検査学における、生理機能検査・血液検査・輸血検査について基礎的な内容を学ぶ。 救急医療における各臨床検査項目の目的、種類、検査データの評価方法を学ぶ。 単純エックス線撮影法、CT検査法、MRI検査法、血管造影法（Digital Subtraction Angiography）、内視鏡、核医学検査といった各種画像診断法の原理と特徴、適応疾患につき、画像を供覧しながら解説する。
到達目標	生理機能・血液（止血）・輸血検査について基礎的な内容の理解。救急救命士国家試験に対応可能なレベルへの到達。 救急救命士標準テキストに記載されている各臨床検査項目の臨床的意義や検査データの診方を理解し、医療スタッフとの情報交換・救急医療に役立てる。 各種画像診断法の利点、欠点を説明できる。

準備学習 時間外学習	前期開講の「解剖学・生理学」の知識を前提に、各種画像ではどのように描出されるかを供覧する。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、スライドによる講義・配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	選択式問題で評価

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	検査学1	臨床検査総論・一般検査【各臨床検査の目的・種類と検査結果の見方、および一般検査について】 臨床検査の目的や種類、検査データの診方が理解できる。一般検査の種類や臨床的意義が理解できる。
2	生理機能	心電図検査、肺機能検査、脳波検査について説明。 主な症例における心電図波形、肺機能検査における主な臨床評価を理解する。
3	画像診断学	内容：単純X線撮影、CT、MRI、超音波、血管造影、内視鏡、核医学検査につき概説する 目標：各種画像検査法の特徴（利点、欠点）を説明できる。
4	検査学2	生化学・血液ガス検査【生化学検査の臨床的意義・基準範囲・パニック値、および血液ガス検査について】 主な生化学検査項目の臨床的意義、基準範囲、パニック値が理解できる。また、血液ガス検査における酸素化や換気、酸塩基平衡の基本的な診方が理解できる。
5	血液	形態を含めた血液検査、止血検査について説明。 主な血液疾患と血液検査項目との関連について理解する。
6	検査学3	微生物検査【微生物検査項目の臨床的意義や検査の流れについて】 微生物検査の臨床的意義、および医療従事者となるうえで知っておくべき主な病原微生物が理解できる。
7	輸血	輸血検査について説明。 血液型・輸血検査の判定方法、輸血副作用について理解する。
8	試験	終講義試験

科目名	放射線医学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Radiology			総時間数	16	単　位	1
学　年	1	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	笹井　正思	実務者経験	1990年7月より大阪大学歯学部附属病院歯科放射線科（2007年より放射線科）に勤務、放射線診療に従事し現在に至る。

学習内容	臨床で用いられる電離放射線の基礎的事項と生物への影響、放射線防護等の一般的な放射線学的知識と、 それを基として放射線障害要救護者対応・緊急被曝医療を学ぶ
到達目標	放射線の一般的知識を基に、放射線事故時の区域管理・スクリーニング・除染処置等の対応と緊急被曝医療体制の概要を理解する

準備学習 時間外学習	放射線物理学に関しては原子の構造・電離作用等の物理学的知識を、放射線生物学に関しては生体中でのDNAの役割等の生物学的知識を、放射線影響学に関しては組織の構造等の解剖学知識を、各々要する。前期開講の当該科目関連事項の復習が望まれる
使用教材	救命救急士テキスト第11版（ヘルス出版）　　配布プリント
留意点 備　考	環境省が公開している「放射線による健康影響等に関する統一的な基礎資料 平成30年度版」の閲覧を推奨いたします

成績評価	期末試験で評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	放射線医学概説 放射線の利用	内容：暮らしや産業のなかでの放射線利用を解説する。目標：放射線利用法から放射線の各種の性質を説明できる。放射線施設は多様で身近に存在し、救急活動現場となりうることを理解する。
2	放射線の基礎知識	内容：放射性壊変と、放射線の種類について学ぶため、原子模型や崩壊形式について解説する。 目標：放射線の種類、分類とその性質につき説明できる。
3	放射線物理学	内容：放射線の一般的性質について解説する。目標：放射線、放射能、放射性同位元素の意味を説明できる。放射線に関わる単位（ベクレル・グレイ・シーベルト）について説明できる。
4	放射線生物学	内容：放射線の生物学的影響の発現機序と効果、放射線感受性について解説する。 目標：確率的影響と確定的影響（組織反応）の差異を説明できる。
5	放射線被曝と防護	内容：ICRPによる放射線防護の基本的な考え方を解説する。目標：対象者による被曝の区分（職業被曝・公衆被曝、医療被曝）、各種被曝様式（内部被曝と外部被曝）について説明できる。
6	放射線事故時の対応	内容：一連の放射線事故対応尾（線量測定、汚染拡大防止、区域管理）について解説する。 目標：時間、距離、遮蔽等の外部被曝への防護法と、区域管理の要点を説明できる。
7	緊急被曝医療体制 まとめ	内容：被曝事故傷病者に関わる一般的事項と緊急被曝医療体制について解説する。 目標：重度の被爆に関連して傷病者に現れうる症状等について、説明できる。
8	試験	後期試験

科目名	シミュレーション実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	1	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	喜代平　要一 金村　諭司	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定 32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	救急救命士に必要な基礎を学ぶ。
到達目標	救急救命士に必要な基礎を学び、想定訓練に繋げれるようになる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	BLS、救急救命処置Ⅰは試験を行う。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	規律訓練	アンケート 規律訓練の目的、停止間、行進間
2	規律訓練	アンケート 規律訓練の目的、停止間、行進間
3	4つの習慣	キャリア教育の一環として、夢を実現する為の4つの習慣について
4	4つの習慣	グループワーク
5	規律訓練	停止間、行進間
6	規律訓練	停止間、行進間
7	規律訓練	停止間、行進間
8	規律訓練	停止間、行進間
9	規律訓練	停止間、行進間
10	規律訓練	停止間、行進間
11	規律訓練	停止間、行進間
12	規律訓練	停止間、行進間
13	規律訓練 固定処置	停止間、行進間 三角巾法
14	規律訓練 固定処置	停止間、行進間 三角巾法
15	リバーレスキュー	リバーレスキュー講義
16	リバーレスキュー	リバーレスキュー講義
17	固定処置	三角巾法、止血法

18	固定処置	三角巾法、止血法
19	固定処置	骨折の処置
20	固定処置	骨折の処置
21	固定処置 搬送法	骨折の処置 徒手搬送
22	固定処置 搬送法	骨折の処置 徒手搬送
23	搬送法	布担架、スクープストレッチャー
24	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
25	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
26	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
27	リバーレスキュー	リバーレスキュー実技
28	搬送法	メインストレッチャー
29	搬送法	メインストレッチャー
30	搬送法	メインストレッチャー
31	搬送法	メインストレッチャー
32	搬送法	その他の搬送法
33	搬送法	その他の搬送法
34	搬送法	その他の搬送法
35	搬送	救急車搬入及び搬出、保温法
36	搬送	救急車搬入及び搬出、保温法
37	BLS	JWEB導入、BLS導入
38	BLS	JWEB導入、BLS導入
39	BLS	シミュレーション
40	BLS	シミュレーション
41	BLS	シミュレーション
42	BLS	シミュレーション
43	BLS	シミュレーション
44	BLS	シミュレーション
45	BLS	シミュレーション
46	BLS	シミュレーション
47	BLS	効果測定

48	BLS	効果測定
49	観察	意識、呼吸、脈拍
50	観察	意識、呼吸、脈拍
51	観察	資器材観察(聴診)
52	観察	資器材観察(聴診)
53	観察	血圧、その他
54	観察	血圧、その他
55	観察	神経所見、触診
56	観察	神経所見、触診
57	訓練参加	合同訓練
58	訓練参加	合同訓練
59	訓練参加	合同訓練
60	訓練参加	合同訓練
61	救急救命処置Ⅰ	模試解説
62	救急救命処置Ⅰ	資器材の確認
63	救急救命処置Ⅰ	資器材の確認
64	観察	心電図導入
65	観察	心電図導入
66	観察	心電図導入
67	観察	心電図装着
68	観察	心電図装着
69	救急救命処置Ⅰ	異物除去説明 用手的異物除去
70	救急救命処置Ⅰ	喉頭鏡の使用法
71	救急救命処置Ⅰ	喉頭鏡の使用法
72	救急救命処置Ⅰ	喉頭鏡の使用法
73	救急救命処置Ⅰ	喉頭鏡の使用法
74	救急救命処置Ⅰ	器具を用いた異物除去
75	救急救命処置Ⅰ	吸引器の使用法
76	救急救命処置Ⅰ	吸引器の使用法
77	救急救命処置Ⅰ	用手的気道確保 器具を用いた気道確保

78	救急救命処置Ⅰ	用手的気道確保 器具を用いた気道確保
79	救急救命処置Ⅰ	呼吸管理セットの説明
80	救急救命処置Ⅰ	呼吸管理セットの説明
81	救急救命処置Ⅰ	BVMの使用法
82	救急救命処置Ⅰ	BVMの使用法
83	ロープ結索	ロープ結索
84	ロープ結索	ロープ結索
85	消防研修	プレホスピタルセミナー見学参加
86	消防研修	プレホスピタルセミナー見学参加
87	体力練成	トレーニング資器材の使用説明受講
88	体力練成	消防の体力試験に向けての練成方法
89	救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
90	救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
91	救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
92	救急救命処置Ⅰ	状況評価 初期評価
93	SPIテスト	SPIテスト
94	SPIテスト	SPIテスト
95	救急救命処置Ⅰ	徽章授与式訓練見学
96	救急救命処置Ⅰ	徽章授与式訓練見学
97	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
98	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
99	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
100	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
101	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
102	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
103	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
104	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
105	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
106	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
107	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練

108	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
109	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
110	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
111	救急救命処置Ⅰ	効果測定
112	救急救命処置Ⅰ	効果測定
113	救急救命処置Ⅰ	効果測定
114	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
115	救急救命処置Ⅰ	シミュレーション訓練
116	JPTEC	JPTEC導入
117	JPTEC	JPTEC導入
118	JPTEC	脊椎運動制限
119	JPTEC	脊椎運動制限
120	訓練参加	メディカルラリー
121	訓練参加	メディカルラリー
122	訓練参加	メディカルラリー
123	訓練参加	メディカルラリー
124	BLS	CPR講習導入
125	BLS	CPR講習導入
126	BLS	CPR講習（AMT）
127	BLS	CPR講習（AMT）
128	BLS	CPR講習（JT）
129	BLS	CPR講習（JT）
130	JPTEC	導入講義
131	JPTEC	導入講義
132	JPTEC	車外救出
133	JPTEC	車外救出
134	模擬試験	第6回模擬試験
135	模擬試験	第6回模擬試験

科目名	シミュレーション実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	316	単　位	7
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之 大﨑　聖敏	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師) 10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基本を応用し、現場活動を学ぶ。
到達目標	外傷処置、特定行為の実習を学び、想定訓練に活かせる。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	JPTEC、救急救命処置Ⅱはテストを実施する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	HR	キャリアサポートに関するアンケートの実施
2	HR	医学の専門基礎テスト
3	JPTEC	JPTEC導入
4	JPTEC	JPTEC導入
5	JPTEC	脊椎運動制限
6	JPTEC	脊椎運動制限
7	JPTEC	シミュレーション
8	JPTEC	シミュレーション
9	JPTEC	シミュレーション
10	JPTEC	シミュレーション
11	JPTEC	シミュレーション
12	JPTEC	シミュレーション
13	JPTEC	シミュレーション
14	JPTEC	シミュレーション
15	JPTEC	シミュレーション
16	JPTEC	シミュレーション
17	JPTEC	シミュレーション

18	JPTEC	シミュレーション
19	JPTEC	シミュレーション
20	JPTEC	シミュレーション
21	JPTEC	シミュレーション
22	JPTEC	シミュレーション
23	JPTEC	効果測定
24	JPTEC	効果測定
25	JPTEC	効果測定
26	JPTEC	効果測定
27	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
28	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
29	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
30	救急救命処置Ⅱ	異物除去シミュレーション
31	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
32	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
33	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
34	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
35	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
36	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
37	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
38	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
39	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
40	救急救命処置Ⅱ	声門上気道デバイス(基本想定)
41	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
42	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
43	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
44	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
45	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
46	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本手技
47	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本想定

48	救急救命処置Ⅱ	静脈路確保基本想定
49	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
50	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
51	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
52	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
53	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
54	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
55	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
56	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
57	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
58	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
59	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
60	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
61	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
62	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
63	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
64	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
65	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
66	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
67	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
68	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション
69	気管挿管	気管挿管講義
70	気管挿管	気管挿管講義
71	実科査閲	大阪府消防学校見学
72	実科査閲	大阪府消防学校見学
73	海外(国内)研修説明会	海外(国内)研修に関する導入
74	海外(国内)研修説明会	海外(国内)研修に関する導入
75	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
76	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
77	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定

78	救急救命処置Ⅱ	特定行為シミュレーション効果測定
79	救急救命処置Ⅱ	特定行為振り返り
80	救急救命処置Ⅱ	特定行為振り返り
81	救急救命処置Ⅱ	自動式心臓マッサージ
82	救急救命処置Ⅱ	自動式心臓マッサージ
83	救急救命処置Ⅱ	血糖測定 ブドウ糖投与
84	救急救命処置Ⅱ	血糖測定 ブドウ糖投与
85	救急救命処置Ⅱ	気管挿管応用、シミュレーション
86	救急救命処置Ⅱ	気管挿管応用、シミュレーション
87	気管挿管	気管挿管実技
88	気管挿管	気管挿管実技
89	徽章授与式	徽章授与式訓練
90	徽章授与式	徽章授与式訓練
91	訓練参加	兵庫県訓練
92	訓練参加	兵庫県訓練
93	訓練参加	兵庫県訓練
94	訓練参加	兵庫県訓練
95	徽章授与式	SPIテスト、徽章授与式訓練
96	徽章授与式	徽章授与式訓練
97	徽章授与式	徽章授与式訓練
98	徽章授与式	徽章授与式訓練
99	徽章授与式	徽章授与式訓練
100	徽章授与式	徽章授与式訓練
101	徽章授与式	徽章授与式訓練
102	徽章授与式	徽章授与式訓練
103	気管挿管	気管挿管実技、試験
104	気管挿管	気管挿管実技、試験
105	徽章授与式	徽章授与式訓練
106	徽章授与式	徽章授与式訓練
107	徽章授与式	徽章授与式

108	徽章授与式	徽章授与式
109	徽章授与式	徽章授与式
110	徽章授与式	徽章授与式
111	模擬試験	第5回模擬試験A問題
112	模擬試験	第5回模擬試験A問題
113	模擬試験	第5回模擬試験BCD問題
114	模擬試験	第5回模擬試験BCD問題
115	海外国内研修	海外国内研修
116	海外国内研修	海外国内研修
117	海外国内研修	海外国内研修
118	海外国内研修	海外国内研修
119	海外国内研修	海外国内研修
120	海外国内研修	海外国内研修
121	海外国内研修	海外国内研修
122	海外国内研修	海外国内研修
123	海外国内研修	海外国内研修
124	海外国内研修	海外国内研修
125	海外国内研修	海外国内研修
126	海外国内研修	海外国内研修
127	模擬試験	第6回模擬試験A問題
128	模擬試験	第6回模擬試験A問題
129	模擬試験	第6回模擬試験BCD問題
130	模擬試験	第6回模擬試験BCD問題
131	解剖実習	大阪大学へ系統解剖実習
132	実習前研修	オリエンテーション、記録（チェックリスト・評価表・薬剤投与記録・実習記録）
133	実習前研修	各病院の説明(前年度同施設実習生代表が入ってのグループミーティング）
134	実習前研修	輸液について、ドレーン管理について
135	実習前研修	患者搬入・初療室の流れについて、初療室・ICU の１日の流れについて、　重症患者の観察、救急での検査・器材・薬品、救急カートなど
136	実習前研修	実習の計画(初日の実習目標・実習項目を挙げ、それについての予習）記録について考察の考え方
137	実習前研修	十二誘導心電図の測定法

138	実習前研修	気管内吸引・気管チューブの固定、カフ圧の理解・測定など
139	実習前研修	フィジカルアセスメント
140	実習前研修	静脈ルート(血管の選択、皮膚消毒、穿刺、固定法など)血糖測定 静脈ルート(ルート作成、三方活栓の使用法・エピネフリン・ブドウ糖溶液の投与法など)
141	実習前研修	感染予防(病院の清潔管理・清潔操作・　手洗い方法、手指消毒法、)　時間が余れば、ガウンテクニック・グローブ着脱など
142	実習前研修	車椅子の使用法、ベットでの患者搬送　(時間があれば、患者移動法、シーツ交換、清拭、体位交換)
143	実習前研修	集中治療における酸素療法の選択(高、低流量システム)
144	実習前研修	〃
145	実習前研修	血液浄化療法の特徴、実際の使用法について
146	実習前研修	〃
147	実習前研修	体外循環療法の特徴、実際の使用法について
148	実習前研修	〃
149	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
150	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
151	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
152	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
153	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
154	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
155	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
156	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
157	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正
158	病院実習レポート	実習内容についてのレポート作成および修正

科目名	接遇と安全管理			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Reception & Service			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	金	時　限	5･6

担当教員	平田　誠 森本　幸夫	実務者経験	病院救命士として15年の臨床経験（救急救命士） 消防経験40年勤務ののち東洋医療学校で教員として7年、病院救命士指導顧問として現在に至る（救急救命士）

学習内容	傷病者、家族に対する接遇要領、安全管理について、ストレスマネージメントについて、テキストを通して学習する。
到達目標	救急救命士として傷病者やその家族と接する時の接遇とはどういうものかを理解できる 救急救命士自身、また傷病者の安全管理が行えるよう理解することができる 救急救命士自身のストレスマネージメントとはどういうことか理解できる

準備学習 時間外学習	講義内容の復習を行う。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	自己紹介	■他者に情報を適切に伝達するということを意識した自己紹介 (声の大きさや態度、話し方を意識する)
2	救急救命士と傷病者との関係	■傷病者とのコミュニケーションの技法と初期対応について ■安心につながる対応、精神的援助、死者その家族とのかかわり ■インフォームドコンセントと生前意思表示について
3	安全管理	■安全管理とリスクマネージメント ■傷病者の安全管理（転倒・転落防止、チューブ・カテーテル類管理、誤嚥防止、感染予防） ■救急隊員の安全管理（業務上の事故、感染防御）
4	フィジカルアセスメント	■フィジカルアセスメント（呼吸・循環・意識・腹部）の理解
5	ストレスに対するマネージメント	■救急活動でのストレス（ストレスの意味、対応、ＰＴＳＤについて） ■救急活動でのストレス対応（ＰＴＳＤに対するケア、環境整備）
6	トリアージ学習	■トリアージの基礎の理解 ■トリアージペーパー演習
7	まとめ	全体を通しての復習(重要事項の再確認)
8	終講義試験	

科目名	心肺停止			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Cardio-Pulmonary Arrest			総時間数	30	単　位	2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	心肺停止の判断や、病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	心肺停止の概念、病態について理解し、救急蘇生法の最新のガイドラインを学習することで、救急活動におけるプロトコールを理解、習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心肺停止総論	・定義、概念、疫学についての最新資料　・救急活動基準に記載されている心肺停止に関する定義　・早期、晩期死体現象（死後変化）　・ウツタイン様式について説明。
2	心肺停止に至る病態と原因	・不整脈、低心拍出量　・心臓振盪について
3	心肺停止に至る病態と原因	・呼吸不全　・乳幼児突然死症候群に関する知見　・脳障害、急性中毒、電解質異常、電撃症など
4	心肺停止に至る病態と原因	・生体酸素状況　・主な原因疾患について（5H5T）　・心電図分類
5	心肺蘇生中の病態	・胸骨圧迫による循環発生の機序　・心肺蘇生中の冠循環と脳循環
6	心肺蘇生中の病態	・心肺蘇生中の呼吸循環（呼気終末二酸化炭素分圧の重要性　・胸骨圧迫の効果に影響する因子（血管収縮薬、陽圧換気など）
7	心拍再開後の病態	・虚血　・再灌流障害　・循環、神経機能の回復過程
8	心拍再開後の病態	・心拍再開後の経過に影響する因子（酸素、二酸化炭素、体温、血糖、痙攣など） ・ガイドライン2015記載内容
9	救急蘇生法	・蘇生ガイドラインの歴史　・蘇生ガイドラインの成り立ち　・AHA、ERC、JRC
10	蘇生ガイドライン	・一次救命処置（市民用）　・ガイドライン2015
11	救急隊員による一次救命処置	・一次救命処置（医療用）　・ガイドライン2015　・市民による一次救命処置についても講義
12	心肺蘇生に関する病院前救護のプロトコール	・病院前救護の心肺蘇生に関するプロトコール　・心停止アルゴリズム　・心肺機能停止対応業務ムロトコール　・包括的指示下除細動プロトコール　・器具を用いた気道確保プロトコール　・薬剤投与プロトコール　・VF/無脈性VTへの対応　・無脈静電気活動/心静止への対応
13	医療機関での治療	・二次救命処置　・特殊な二次救命処置（PCPS、開胸式心マッサージ）　・心拍再開後の集中治療
14	小児の救急蘇生法・乳児の救急蘇生法	・ガイドライン2015の内容も合わせて
15	まとめ	・最近の国家試験問題ほか

科目名	ショック・循環不全			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Shock・Circulatory Failure			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	火土	時　限	5･6

担当教員	矢野　博之	実務者経験	3年の消防経験(H10.救急救命士)その後、看護師として12年の臨床経験(H20.看護師)

学習内容	ショック・循環不全の病態生理と救急処置法などを中心に理解できる。
到達目標	ショック、心不全の病態生理を理解する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	心不全	・心不全の定義、原因疾患　・心不全の病態生理
2	心不全	・心不全の症候　・心不全の種類　・現場活動の留意点
3	ショック	・ショックの定義と分類
4	ショック	・ショックの分類毎の病態生理
5	ショック	・循環血液量減少性ショックの病態と原因疾患　・心原性ショックの病態を原因疾患
6	ショック	・心外閉塞拘束性ショックの病態と原因疾患　・血液分布異常性ショックの病態と原因疾患
7	まとめ	まとめ
8	試験	終講義試験

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	16	単　位	合わせて2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	意識障害の傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な重症脳障害と意識障害の病態、重症度・緊急度判断、現場対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題と穴埋め問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論、発症機序
2	重症脳障害	一次性脳病変、二次性脳病変
3	重症脳障害	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア
4	意識障害	原因疾患
5	意識障害	随伴症候
6	意識障害	鑑別を要する病態
7	意識障害	重症度・緊急度の判断、現場活動
8	まとめと試験	

科目名	意識障害			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Conscious Disturbance			総時間数	16	単　位	合わせて2
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	意識障害の傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な重症脳障害と意識障害の病態、重症度・緊急度判断、現場対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題と穴埋め問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	重症脳障害	総論、発症機序
2	重症脳障害	一次性脳病変、二次性脳病変
3	重症脳障害	頭蓋内圧亢進、脳ヘルニア
4	意識障害	原因疾患
5	意識障害	随伴症候
6	意識障害	鑑別を要する病態
7	意識障害	重症度・緊急度の判断、現場活動
8	まとめと試験	

科目名	救急症候学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Emergency Symptomatology			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	喜代平　要一	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)

学習内容	各種疾患の症候を病態生理と関連付けて理解し、症候・病態ごとの観察・評価・処置について理解できる
到達目標	症候から、救急医療において必要な鑑別診断ができる。臨床の場において、しなければならない事を把握し、実際に活用できるレベルと及び国家試験に対応できるレベルに到達する事を目標とする。

準備学習 時間外学習	各講義ごとに配布する演習問題を中心に復習する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版　配布プリント　演習問題
留意点 備　考	講義の進捗状況により内容が前後する事がある。

成績評価	期末に試験を実施し、評価する

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸不全	呼吸不全の概念・病態・換気障害・代表的な疾患について理解し説明できる。
2	呼吸不全	呼吸不全の概念・病態・換気障害・代表的な疾患について理解し説明できる。
3	頭痛	頭痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
4	頭痛	頭痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
5	痙攣	痙攣の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
6	痙攣	痙攣の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
7	運動麻痺・めまい	運動麻痺及びめまいの機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
8	運動麻痺・めまい	運動麻痺及びめまいの機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
9	呼吸困難・喀血	呼吸困難・喀血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
10	呼吸困難・喀血	呼吸困難・喀血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
11	失神	失神の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
12	失神	失神の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
13	胸痛	胸痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
14	胸痛	胸痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
15	動悸	動悸の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
16	動悸	動悸の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。

17	腹痛	腹痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
18	腹痛	腹痛の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
19	吐血・下血	吐血・下血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
20	吐血・下血	吐血・下血の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
21	腰痛・背部痛 体温上昇	腰痛・背部痛・体温上昇の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
22	腰痛・背部痛 体温上昇	腰痛・背部痛・体温上昇の機序・種類・随伴症候・代表的な疾患について理解し説明できる。
23	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅰ(神経系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Neural Diseases			総時間数	18	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学）

学習内容	神経系疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な神経系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	疫学、主要症候、基本的対応
2	主な神経系疾患	概要、脳卒中
3	脳血管障害	脳梗塞
4	脳血管障害	くも膜下出血
5	脳血管障害	脳出血
6	脳血管障害	一過性脳虚血発作、脳動静脈奇形、もやもや病
7	感染症 末梢神経疾患	髄膜炎、脳炎、脳症、脳膿瘍、ギラン・バレー症候群、糖尿病性ニューロパチー
8	その他	てんかん、脳腫瘍、変性疾患(パーキンソン病、ALS、アルツハイマー病など)
9	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅰ(感覚器口腔系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Sensory & Oral Diseases			総時間数	14	単　位	神経系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	5.6

担当教員	喜代平　要一 横田　祐介	実務者経験	眼科分野・耳鼻咽喉科：29年の消防経験(H13.救急救命士) 口腔外科診療及び治療に12年携わる

学習内容	感覚器口腔分野の解剖を理解したうえで主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な感覚器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	毎回の講義後、復習をしておく
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	顎･口腔の解剖および、代表疾患	歯･口腔系の構造を理解した上で、疾患について理解する。 救急現場おける対処法について理解する。
2	口腔外科学および、口腔外傷対処法	〃
3	耳鼻咽喉科	聴覚器の解剖
4	〃	末梢性めまい、炎症(中耳炎、鼓膜穿孔) 鼻の疾患(鼻出血、急性副鼻腔炎)
5	眼の主要症候と救急疾患	眼科領域の解剖 視覚障害と各眼科的救急疾患の理解を深める
6	〃	急性緑内障発作、網膜中心動脈閉塞症、網膜剥離、結膜炎･角膜炎、白内障、視神経炎
7	試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(呼吸器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Respiratory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	呼吸器疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な呼吸器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論	疫学、主要症候、基本的対応
2	主な呼吸系疾患	急性呼吸不全、慢性呼吸不全、CO2ナルコーシス
3	上気道の疾患	急性喉頭蓋炎、扁桃周囲膿瘍
4	下気道と肺胞の疾患	気管支喘息、COPD ＜慢性閉塞性肺疾患＞
5	下気道と肺胞の疾患	無気肺、気管支拡張症
6	感染症	肺炎、肺結核、急性上気道炎
7	胸膜疾患 その他の呼吸系疾患	気胸、胸膜炎、肺血栓塞栓症、過換気症候群、ARDS ＜急性呼吸促迫症候群＞、間質性肺炎
8	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅱ(循環器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Circulatory Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5･6

担当教員	今村　行雄	実務者経験	救急医学講座教員（非常勤・大阪大学医学部附属病院） 関西医科大学研究員 京都大学工学研究科・研究員

学習内容	循環器疾患を理解し、傷病者の救急搬送に対応できるように学習する。
到達目標	救急救命士に必要な循環器系疾患の理解、また主要な症候、基本的な対応について理解して説明できる。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読
使用教材	救急救命士　標準テキスト第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	2択の問題で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論 主な循環系疾患	疫学、主要症候、基本的対応、概要、急性冠症候群、心電図の基本
2	虚血性心疾患	心筋梗塞、不安定狭心症、安定狭心症
3	心不全	うっ血性心不全
4	心筋疾患 心膜疾患	心筋炎、心タンポナーデ
5	不整脈	心臓突然死、心室細動、心室頻拍、心房細動、房室ブロック
6	その他の心疾患 血管疾患	感染性心内膜炎、弁膜症、先天性心疾患、急性大動脈解離、大動脈瘤 急性四肢動脈閉塞症、深部静脈血栓症
7	高血圧症	高血圧緊急症
8	まとめと試験	

科目名	疾病救急医学Ⅲ(消化器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Digestive Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	岡崎　智	実務者経験	2012年４月から関西医科大学附属病院外科勤務。一般診療、手術、救急医療を行っている。現在、大学病院講師の職。

学習内容	消化器疾患の基礎および多彩な臓器の多彩な病態を学んで理解する。
到達目標	消化器疾患の基礎を学び、ある程度の疾患の鑑別および重症度の判断ができるようになり、臨床の場に応用できるレベルになる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	**総論**	消化器総論、疫学
2	**総論**	主要症候、基本的対応
3	**上部消化管**	上部消化管疾患、概要、急性腹症
4	**〃**	食道静脈瘤、マロリーワイス症候群、胃・十二指腸潰瘍、急性胃粘膜病変 急性胃腸炎、アニサキス症など
5	**下部消化管**	イレウス、上腸間膜動脈閉塞症、急性虫垂炎、ヘルニア嵌頓、大腸穿孔、虚血性大腸炎、潰瘍性大腸炎、痔核など
6	**〃**	急性腹膜炎など
7	**肝胆膵**	急性肝炎、肝硬変、胆石症、急性胆嚢炎・急性胆管炎、急性膵炎など
8	**まとめと試験**	

科目名	疾病救急医学Ⅲ(泌尿生殖器系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Uro-Genital Diseases			総時間数	10	単　位	消化器疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	辻畑　正雄	実務者経験	大学病院、市中病院等で30年泌尿器科で診療・治療に携わる

学習内容	
到達目標	泌尿器・男性生殖器領域の解剖・生理について理解し、同領域における救急疾患を中心に学習する

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）　　スライドなど
留意点 備　考	

成績評価	試験を行う

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	泌尿器、生殖器の 解剖生理	泌尿器・男性生殖器の解剖および生理
2	泌尿器疾患	腎不全および尿路結石症について
3	泌尿器生殖器疾患	前立腺肥大症、尿路感染症、尿路性器癌
4	泌尿器の外傷	救急外傷について
5	試験	試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(内分泌代謝栄養系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Humoral,Metabolic & Nutritious Diseases			総時間数	8	単　位	血液免疫疾患と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	火・土	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	内分泌器官・代謝器官の解剖・生理と主な疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に理解できる
到達目標	内分泌疾患、代謝栄養疾患に関する基礎的知識の習得と必要な現場処置について習得する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）ほか
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総論、糖尿病	主要症候、緊急度・重症度の判断。糖尿病の病態・分類・治療
2	糖尿病 その他の代謝異常	低血糖の病態・症状・治療、、糖尿病性昏睡の分類・病態・治療、脱水、水電解質異常、酸塩基平衡の障害、痛風
3	内分泌疾患 栄養疾患、	甲状腺機能異常、副腎機能異常、肥満とるいそう、ビタミン欠乏症
4	まとめ	
5	終講義試験	終講義試験

科目名	疾病救急医学Ⅳ(血液免疫系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Blood & Immune Diseases			総時間数	8	単　位	内分泌代謝栄養系と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	谷村　博久	実務者経験	1986年から大阪大学医学部第一内科勤務、1990年から大阪警察病院内科勤務、 2003年から大阪回生病院内科勤務、現在、副院長、内科統括部長、消化器センター長兼務。

学習内容	血液・体液の解剖と生理を理解した上で血液免疫疾患の症状・評価・鑑別・救急処置などを学ぶ。
到達目標	血液免疫疾患の主な症候をあげ、それぞれについて概要を説明できる様になる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	**血液免疫総論　　血液各論**	救急医療における意義、血液・免疫系疾患の主要症候、1)出血傾向/2)リンパ節腫脹/3)肝脾腫、緊急度・重症度の判断、応急処置と搬送、医療機関選定
2	**〃**	貧血、血小板減少症、白血病、血友病、紫斑病、播種性血管内凝固症候群(DIC)、顆粒球減少症、止血に影響を与える薬剤(経口抗凝固薬/2)抗血小板薬)
3	**免疫各論**	1.アナフイラキシー、1)定義・概念/2)疫学/3)原因/4)病態/5)症候/6)現場活動/7)医療機関での診療/8)予後
4	**〃 まとめ、演習**	2.アレルギー性疾患、1)薬物アレルギー/2)食物アレルギー/3)血清病 3.自己免疫疾患、4.膠原病
5	**テスト**	

科目名	疾病救急医学Ⅴ(筋骨格・皮膚系疾患)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Musculo-Skeletal Diseases･Skin Diseases			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋・骨格系の解剖・生理と筋骨格系疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。 皮膚の構造と機能と皮膚疾患の主な症状・評価・鑑別・救急処置などを中心に学習する。
到達目標	筋・骨格系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。 皮膚系疾患の主な症候・皮疹の観察・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	期末試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	筋骨格系疾患１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
2	筋骨格系疾患２	脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	筋骨格系疾患３	関節疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	筋骨格系疾患４	筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	皮膚系疾患１	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
6	皮膚系疾患２	皮膚・軟部組織の感染症　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
7	皮膚系疾患３	皮膚アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
8	終講義試験	

科目名	一般外傷			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Trauma			総時間数	46	単　位	3
学　年	2	学　期	通年	曜　日	火木土	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	各外傷についての受傷機転、発生機序、病態、症状、評価・鑑別、予後や救急処置・搬送方法等について理解できる。
到達目標	外傷の受傷機転別に受傷形態、外傷分類、病態生理を理解することで外傷の現場活動のポイントを整理する。 各種外傷（頭部外傷、顔面頸部外傷、脊椎脊髄外傷、胸部外傷、腹部外傷、骨盤外傷、四肢外傷、皮膚軟部組織外傷、小児高齢者妊婦の外傷）別に、疫学、受傷機転、病態生理、現場活動における注意点につき学習する。

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	筆記試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
2	外傷総論	外傷の疫学、受傷機転、外傷分類、受傷形態につき学習する。
3	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
4	外傷の病態生理	外傷時の生体反応（循環動態、炎症性メディエータ）につき学習する。
5	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の生体反応につき学習する。
6	外傷の病態生理/外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点・注意点につき学習する。
7	外傷の現場活動	外傷時の現場活動の要点
8	外傷の現場活動	・注意点につき学習する。
9	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
10	頭部外傷	頭部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
11	顔面・頸部外傷	顔面・頸部外傷の疫学、受傷機転、各種受傷形態と病態につき学習する。
12	まとめ・試験	まとめ（国家試験問題他）と終講義試験
13	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
14	脊椎・脊髄外傷	脊椎・脊髄外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
15	胸部外傷	胸部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
16	胸部外傷	胸部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。

17	腹部外傷	腹部外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
18	腹部外傷	腹部外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
19	骨盤外傷	骨盤外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。
20	骨盤外傷	骨盤外傷傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
21	四肢外傷、　　皮膚・軟部組織外傷	四肢外傷・皮膚軟部組織外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。 同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
22	小児・高齢者・妊婦の外傷、	小児・高齢者・妊婦の外傷の疫学、受傷機転、主な外傷と病態につき学習する。同傷病者に対する現場での観察と評価、処置、重症度判断につき理解する。
23	まとめ・試験	まとめと終講義試験

科目名	特殊外傷(熱傷電撃症化学損傷・異物縊頸刺咬傷)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Burn・Foreign Body, Hanging, Sting & Bite			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	異物縊頸刺咬傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。熱傷電撃症化学損傷などの特殊外傷の病態生理、症状・評価・鑑別・余語・救急処置・搬送方法　などを中心に学習する。
到達目標	異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。熱傷電撃症化学損傷異物縊頸刺咬傷の病態・分類・主な症候・危険因子・病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	終講義試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	異物・縊頸・刺咬傷１	気道異物・消化管異物　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	異物・縊頸・刺咬傷２	耳目鼻性器の異物・縊頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	異物・縊頸・刺咬傷３	哺乳類・爬虫類による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
4	異物・縊頸・刺咬傷４	節足動物・海洋生物による刺咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
5	熱傷電撃症化学損傷１	熱傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
6	熱傷電撃症化学損傷２	化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
7	熱傷電撃症化学損傷３	電撃症・雷撃症　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
8	特殊外傷	試　　験

科目名	環境障害・急性中毒学(環境障害)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Environmental Diseases			総時間数	12	単　位	急性中毒学と合わせて1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	90年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	環境因子による障害の発生機序、病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置などを理解できるように学習する。
到達目標	溺水・熱中症・偶発性低体温症・高山病・減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　発生機序　病態・分類・主な症候　　病態判断・緊急度重症度判断の方法・診方・処置を説明できる。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト第11版」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい。

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	環境障害１	溺水　の　危険因子　過程　予後　観察と処置　の　理解　と　習得
2	環境障害２	熱中症　の　発生数の特徴　発生機序　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
3	環境障害３	偶発性低体温症　の　発生機序と病態生理　観察　処置　の　理解　と　習得
4	環境障害４	高山病・減圧障害　の　判断基準　病型　観察　処置　の　理解　と　習得
5	環境障害５	酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　症状　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
6	試験	試験

科目名	環境障害・急性中毒学(急性中毒学)			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Poisoning			総時間数	12	単　位	環境障害と合わせて1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	月	時　限	5.6

担当教員	中尾　隆美	実務者経験	医師、大学病院で救急医療に携わる

学習内容	中毒の病態、症状、評価、鑑別、予後や救急処置、搬送方法等を学ぶ
到達目標	救急救命士に必要な　急性中毒について理解し、適切な対応について説明できる。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	中毒総論	定義、疫学、分類、中毒物質 吸収･代謝･排泄、中毒作用、中毒の判断
2	中毒総論	中毒物質の推定、安全確保 中毒物質等の無保存、緊急度･重症度の判断 医療機関での診療、中毒情報センター
3	中毒各論	医薬品中毒、乱用薬物、農薬中毒
4	中毒各論	工業用品中毒 ガス中毒
5	中毒各論	急性エタノール中毒、自然毒中毒、家庭用品中毒 乱用薬物、現場対応と搬送
6	まとめと試験	

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅰ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	46	単　位	1
学　年	2	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	大﨑　聖敏	実務者経験	10年の消防経験(H19.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
6	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
7	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
8	救急車内の資器材	救急自動車内の資器材の確認
9	観察	救急自動車内での観察
10	観察	救急自動車内での観察
11	処置	救急自動車内での処置
12	処置	救急自動車内での処置
13	処置	救急自動車内での処置
14	処置	救急自動車内での処置
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
19	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
20	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
21	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
22	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
23	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

科目名	臨床解剖生理学			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Clinical Aspects on Anatomy & Physiology			総時間数	15	単　位	1
学　年	3	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	村上秀明、西川悠里	実務者経験	村上秀明：大阪大学歯学部附属病院放射線科と医学部附属病院放射線治療科にて31年間の臨床経験。西川悠里：大阪大学歯学部附属病院放射線科で5年間、医学部附属病院放射線治療科にて4年間の臨床経験。

学習内容	救急救命士となるにあたって必要な臨床解剖生理学をマスターする。解剖生理学の総復習
到達目標	人体の解剖学的諸構造と生理学的機能について、適切な解剖学用語と生理学用語を用いて具体的に説明できる。

準備学習 時間外学習	受講後に復習と自己学習をする。練習問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	事前に1年次の解剖生理学の復習をして望む

成績評価	試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	人体の構造と機能	人体各部の名称、細胞と体液
2	神経と感覚	能の機能局在、12対の脳神経、自律神経
3	循環	動脈の名称、心拍出量
4	呼吸	呼吸器の構造、胸郭の機能、呼吸の調節
5	消化	胃、小腸、大腸、肝臓、膵臓の構造と機能
6	泌尿器・皮膚	尿の生成、汗腺
7	血液と免疫	血液の成分、凝固系、非特異免疫、アレルギー
8	テスト	

科目名	産婦人科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Obstetric & Gynecologic Emergencies			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	前期	曜　日	金	時　限	5･6

担当教員	藤田 太輔	実務者経験	【藤田太輔】 2001年4月より現在まで大阪医科大学産婦人科教室に所属し、 産婦人科診療および治療を行う。 2010年より大阪府消防学校 専科教育救急科で産婦人科・周産期について 年2回（計8時間）講義を行っている。

学習内容	産婦人科疾患・周産期疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置・分娩の介助
到達目標	救急救命士として必要な、産婦人科救急への理解、車内分娩の対応など産婦人科領域を習得できる

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版　　）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験(筆記)

コマ数	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	正常妊娠	正常妊娠について 1.受精と着床,2.胎児,3.胎児付属物,4.妊娠週数,5.妊娠による母体の変化
2	異常妊娠	1.妊娠初期の異常 1)流産/2)異所性妊娠(子宮外妊娠)/3)胞状奇胎 1)切迫早産。前期破水/2)妊娠高血圧症候群/3)子癇/4)HELLP症候群 5)前置胎盤/6)常位胎盤早期剥離/7)子宮内胎児死亡
3	正常分娩 異常分娩	正常分娩の経過について、分娩介助について
4	女性生殖器 疾患	1.骨盤内感染症 2.卵巣嚢腫茎捻転 3.子宮筋腫 4.子宮内膜症 5.卵巣出血
5	新生児の観察 分娩のビデオ実習 【佐野匠先生】	1)気道確保・呼吸促進/2)踏帯切断/3)新生児仮死/4)新生児救急蘇生法/5)新生児の搬送法/6)搬送に必要な備品 3.医療機関選定

6	分娩実習 【佐野匠先生】	分娩シミュレータを使用して分娩介助について
7	近畿救急医学研究会 第152回救急隊員部会講演	院外分娩についての対応について
8	まとめと試験	質疑応答、まとめ 終講義試験の実施

科目名	精神科救急			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Psychiatric Disorder			総時間数	16	単　位	1
学　年	2	学　期	後期	曜　日	土	時　限	5･6

担当教員	喜代平　要一	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士挿管・薬剤認定

学習内容	救急の現場でよくみられる代表的な精神疾患について、症状、診断、治療について学ぶ。 向精神薬の作用や副作用についても学ぶ。
到達目標	症候から精神疾患の鑑別診断ができる。学んだ精神疾患の症状や向精神薬の副作用等について理解し、実際に救急の現場で活用でき、かつ救急救命士国家試験に対応できるレベルに達する。

準備学習 時間外学習	事前にテキストの閲読、講義ごとの復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	精神障害	総論、分類 精神障害原因からの分類/2)精神障害の症状からの分類
2	疫学、主要症候	1)せん妄/2)精神運動興奮/3)昏迷/4)幻覚・妄想/5)躁状態/6)抑うつ/7)不安。 パニック発作
3	基本的対応	1)精神症状への対応/2)自殺企図者・高リスク者への対応/3)精神運動興奮。他害行為への対応
4	統合失調症	1.搬送先の選定、2.医療機関選定と入院形態、気分障害、器質性精神障害
5	中毒性障害	1.アルコール関連障害、2.アルコール依存・乱用と関連が強い身体疾患 3.覚醒剤乱用・依存、4.危険ドラッグ
6	その他の精神障害	1.パニック障害、2.心的外傷後ストレス障害(PTSD)3.解離性(転換性)障害、4.摂食障害、1)神経性無食欲症/2)神経性大食症
7	〃	パーソナリテイ障害1)反社会性パーソナリテイ障害/2)境界性パーソナリテイ障害、6.精神遅滞7.広汎性発達障害、G 向精神薬の主な副作用 1.悪性症候群、2.セロトニン症候群
8	まとめと試験	

科目名	小児救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Pediatric Emergencies			総時間数	32	単　位	2
学　年	3	学　期	前期	曜　日	月	時　限	5･6

担当教員	金村　諭司	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	小児・新生児疾患の特殊性と症状・評価・鑑別・救急処置を中心に理解できる。
到達目標	小児・新生児の特性と分類、生理学的特長、観察と判断・応急処置と搬送法、小児に特有な救急疾患について理解し説明ができる。

準備学習 時間外学習	テキストの用語の読み方や意味を調べておく。 受講後に復習と自己学習をする。過去問題を解いて、テキストで確認する。
使用教材	救急救命士標準テキスト第11版（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	終講義試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	染色体異常・先天異常	染色体異常・先天異常　の特徴を理解する
2	新生児	新生児疾患とその疾患を理解する
3	代謝疾患	糖尿病、ケトアシドーシス、その合併症の病態を理解する
4	内分泌疾患	副腎疾患、小児の甲状腺疾患を理解する
5	免疫・アレルギー	アレルギーのしくみとその疾患について知る
6	膠原病　川崎病	膠原病や川崎病とその病状を理解する
7	呼吸器疾患	喘息やクループへの対応方を知る
8	感染症　1	代表的なウイルス感染症を理解する
9	感染症　2	代表的な細菌感染症を理解する
10	循環器疾患	先天性心疾患を知る
11	血液・腫瘍疾患	小児の白血病、貧血、固形腫瘍を理解する
12	消化器疾患	新生児から小児の消化器疾患を理解する
13	神経疾患　1	水頭症やてんかん
14	神経疾患　2	熱性痙攣への対応、その他の痙攣
15	小児の成長	小児の成長の特徴を理解する
16	小児の成長	まとめ

科目名	高齢者救急疾患			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	Geriatric Emergencies			総時間数	16	単　位	1
学　年	3	学　期	前期	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	喜代平　要一	実務者経験	29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	高齢社会となり、増加し続ける高齢者の救急搬送に対応できるように高齢者の特徴等を学習する。
到達目標	高齢者の身体所見の特徴と特有の疾患を理解し、説明することができ、国家試験において一般問題だけではなく、症例問題にも十分に対応できる知識を身につける。

準備学習 時間外学習	標準テキストの閲読と予習復習プリントの実施
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）
留意点 備　考	

成績評価	五肢択一もしくは択二の筆記試験で評価する。

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	高齢者の特徴	加齢による身体機能の変化について
2	高齢者の特徴	高齢者の特徴からの現場活動での注意点
3	高齢者に特有の疾患	脳血管障害とそれに伴う症状
4	高齢者に特有の疾患	認知症（アルツハイマー病など）とそれに伴う症状
5	高齢者に特有の疾患	肺炎、COPDとそれに伴う症状
6	高齢者に特有の疾患	虚血性腸炎、前立腺肥大症、廃用症候群とそれに伴う症状
7	高齢者に特有の疾患 外傷	骨粗鬆症、脊椎圧迫骨折、四肢の骨折
8	まとめ	

科目名	シミュレーション実習Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Simulation Training			総時間数	315	単　位	7
学　年	3	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	金村　諭司 喜代平　要一	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定 29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	基礎を振り返り、想定訓練を行う。
到達目標	現場対応が十分にできる。また国家試験の症例問題に十分に対応できる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	想定訓練	シミュレーション
2	想定訓練	シミュレーション
3	想定訓練	シミュレーション
4	想定訓練	シミュレーション
5	想定訓練	シミュレーション
6	想定訓練	シミュレーション
7	体力訓練	
8	体力訓練	
9	想定訓練	シミュレーション
10	想定訓練	シミュレーション
11	想定訓練	シミュレーション
12	想定訓練	シミュレーション
13	ガイダンス 想定訓練	堺市消防局ガイダンス シミュレーション
14	ガイダンス 想定訓練	堺市消防局ガイダンス シミュレーション
15	想定訓練	シミュレーション
16	想定訓練	シミュレーション
17	想定訓練	シミュレーション

18	想定訓練	シミュレーション
19	体力訓練	
20	体力訓練	
21	想定訓練	シミュレーション
22	想定訓練	シミュレーション
23	想定訓練	シミュレーション
24	想定訓練	シミュレーション
25	想定訓練	シミュレーション
26	想定訓練	シミュレーション
27	想定訓練	シミュレーション
28	想定訓練	シミュレーション
29	想定訓練	シミュレーション
30	想定訓練	シミュレーション
31	体力訓練	
32	体力訓練	
33	想定訓練	シミュレーション
34	想定訓練	シミュレーション
35	想定訓練	シミュレーション
36	想定訓練	シミュレーション
37	想定訓練	シミュレーション
38	想定訓練	シミュレーション
39	想定訓練	シミュレーション
40	想定訓練	シミュレーション
41	想定訓練	シミュレーション
42	想定訓練	シミュレーション
43	想定訓練	シミュレーション
44	想定訓練	シミュレーション
45	体力訓練	
46	体力訓練	
47	想定訓練	シミュレーション

48	想定訓練	シミュレーション
49	想定訓練	シミュレーション
50	想定訓練	シミュレーション
51	想定訓練	シミュレーション
52	想定訓練	シミュレーション
53	想定訓練	シミュレーション
54	想定訓練	シミュレーション
55	想定訓練	シミュレーション
56	想定訓練	シミュレーション
57	想定訓練	シミュレーション
58	想定訓練	シミュレーション
59	特定行為	異物除去、特定行為
60	特定行為	異物除去、特定行為
61	特定行為	異物除去、特定行為
62	特定行為	異物除去、特定行為
63	特定行為	血糖測定、ブドウ糖投与
64	特定行為	血糖測定、ブドウ糖投与
65	特定行為	心停止前の輸液
66	特定行為	心停止前の輸液
67	PCEC	シミュレーション
68	PCEC	シミュレーション
69	PSLS	シミュレーション
70	PSLS	シミュレーション
71	想定訓練	シミュレーション
72	想定訓練	シミュレーション
73	想定訓練	シミュレーション
74	想定訓練	シミュレーション
75	想定訓練	シミュレーション
76	想定訓練	シミュレーション
77	想定訓練	シミュレーション

78	想定訓練	シミュレーション
79	想定訓練	シミュレーション
80	想定訓練	シミュレーション
81	想定訓練	シミュレーション
82	想定訓練	シミュレーション
83	想定訓練	シミュレーション
84	想定訓練	シミュレーション
85	想定訓練	シミュレーション
86	想定訓練	シミュレーション
87	想定訓練	シミュレーション
88	想定訓練	シミュレーション
89	想定訓練	シミュレーション
90	想定訓練	シミュレーション
91	想定訓練	シミュレーション
92	想定訓練	シミュレーション
93	想定訓練	シミュレーション
94	想定訓練	シミュレーション
95	想定訓練	シミュレーション
96	想定訓練	シミュレーション
97	想定訓練	シミュレーション
98	想定訓練	シミュレーション
99	想定訓練	シミュレーション
100	想定訓練	シミュレーション
101	想定訓練	シミュレーション
102	想定訓練	シミュレーション
103	想定訓練	シミュレーション
104	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
105	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
106	多言語演習	コミュニケーション能力の向上
107	多言語演習	コミュニケーション能力の向上

108	想定訓練	シミュレーション
109	想定訓練	シミュレーション
110	想定訓練	シミュレーション
111	想定訓練	シミュレーション
112	想定訓練	シミュレーション
113	国家試験対策	症例検討
114	国家試験対策	症例検討
115	想定訓練	シミュレーション
116	想定訓練	シミュレーション
117	想定訓練	シミュレーション
118	想定訓練	シミュレーション
119	国家試験対策	症例検討
120	国家試験対策	症例検討
121	想定訓練	シミュレーション
122	想定訓練	シミュレーション
123	国家試験対策	症例検討
124	国家試験対策	症例検討
125	想定訓練	シミュレーション
126	想定訓練	シミュレーション
127	国家試験対策	症例検討
128	国家試験対策	症例検討
129	想定訓練	シミュレーション
130	想定訓練	シミュレーション
131	国家試験対策	症例検討
132	国家試験対策	症例検討
133	想定訓練	シミュレーション
134	想定訓練	シミュレーション
135	想定訓練	シミュレーション
136	想定訓練	シミュレーション
137	国家試験対策	症例検討

138	国家試験対策	症例検討
139	想定訓練	シミュレーション
140	想定訓練	シミュレーション
141	想定訓練	シミュレーション
142	想定訓練	シミュレーション
143	国家試験対策	症例検討
144	国家試験対策	症例検討
145	想定訓練	シミュレーション
146	想定訓練	シミュレーション
147	想定訓練	シミュレーション
148	想定訓練	シミュレーション
149	国家試験対策	症例検討
150	国家試験対策	症例検討
151	国家試験対策	症例検討
152	国家試験対策	症例検討
153	国家試験対策	症例検討
154	国家試験対策	症例検討
155	国家試験対策	症例検討
156	国家試験対策	症例検討
157	国家試験対策	症例検討
158	国家試験対策	症例検討

科目名	救急用自動車・同乗実習Ⅱ			必修/選択	必修	授業形式	実習
【英】	Ambulance Training			総時間数	45	単　位	1
学　年	3	学　期	通年	曜　日	期間中随時	時　限	5･6

担当教員	金村　諭司 喜代平　要一	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定 29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	学内にある救急自動車を使用し、訓練する。 地域の消防本部にて同乗実習を行う。
到達目標	救急自動車内での対応ができる。

準備学習 時間外学習	実技を各自で行う。
使用教材	救急救命士　標準テキスト　第11版　　出版社（へるす出版）、配布プリント
留意点 備　考	

成績評価	

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	搬送法	メインストレチャーの曳行
2	搬送法	メインストレチャーの曳行
3	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
4	搬入、搬出	救急自動車への搬入と搬出を行う。
5	観察	救急自動車内での観察
6	処置	救急自動車内での処置
7	処置	救急自動車内での処置
8	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
9	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
10	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
11	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
12	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
13	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
14	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
15	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
16	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション
17	想定訓練	学内の救急自動車を使用してのシミュレーション

18	同乗実習	消防本部での同乗実習
19	同乗実習	消防本部での同乗実習
20	同乗実習	消防本部での同乗実習
21	同乗実習	消防本部での同乗実習
22	同乗実習	消防本部での同乗実習
23	同乗実習	消防本部での同乗実習

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine			総時間数	20	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	水	時　限	5･6

担当教員	小笠　智嗣	実務者経験	1990年6月から整形外科医・救急救命医として病院勤務及び大学院にて研究し医学博士修得2000年におがさ整形外科開院。

学習内容	筋骨格系・皮膚系、熱傷電撃症化学損傷・異物溢頚刺咬傷、環境障害、の　総合的理解　と　最終的習得
到達目標	救急救命士として求められる知識を総合的に習得する。

準備学習 時間外学習	解剖学・生理学・臨床医学各論の予習・復習が必要。
使用教材	教科書「救急救命士標準テキスト」（へるす出版）
留意点 備　考	解剖・生理学の教科書を持参して受講することが望ましい

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	総合救急医療１	筋骨格系疾患の総論、主要症候、基本的対応，　脊椎疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
2	総合救急医療２	関節疾患、筋疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　理解　と　習得
3	総合救急医療３	皮膚系疾患の総論、主要症候、基本的対応　の　理解　と　習得
4	総合救急医療４	皮膚・軟部組織の感染症、アレルギー疾患　の　原因　病態　症状　診断　治療法の理解　と　習得
5	総合救急医療５	気道異物・消化管異物・耳目鼻性器異物・縦頸　の　原因　病態　症状　診断　治療法の　理解　と　習得
6	総合救急医療６	哺乳類・爬虫類・節足動物・海洋生物による咬傷　の　原因　病態　症状　診断　治療法　の　　理解　と　習得
7	総合救急医療７	熱傷・化学損傷　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　　理解　と　　習得
8	総合救急医療８	電撃症・雷撃症・溺水　の　病態・分類・主な症候・危険因子・緊急度重症度判断の方法・処置　の　理解　と　習得
9	総合救急医療９	熱中症・偶発性低体温症・高山病　の　発生数の特徴　発生機序　分類　観察　処置　の　理解　と　習得
10	総合救急医療１０	減圧障害・酸素欠乏症・凍傷・紫外線による障害　の　症状　分類　観察　処置　の　理解　と　習得

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	40	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	火土	時　限	5･6

担当教員	呉　教東	実務者経験	日本救急医学会専門医・指導医 評議員（前）：日本救急医学会・日本臨床救急医学会・日本脳神経外傷学会

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	
使用教材	救急救命士標準テキスト、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	国家試験対策	過去の国家試験問題からB,C問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	国家試験対策	過去の国家試験問題からA,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	48	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	木	時　限	5.6

担当教員	岸　正司	実務者経験	病院等で救急医療に30年携わる

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
2	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
3	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
4	呼吸器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
5	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
6	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
7	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
8	循環器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
9	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
10	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
11	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
12	消化器系疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
13	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
14	泌尿・生殖・内分泌疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
15	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
16	血液・免疫・アレルギー疾患	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
17	その他	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
18	その他	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
19	意識障害	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
20	意識障害	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
21	外傷関係	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
22	外傷関係	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
23	中毒	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題
24	中毒	過去の国家試験問題からC,D問題を中心に、疑問点の解説、標準テキスト復習のための問題

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	12	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	5.6

担当教員	濵田　智子	実務者経験	病院等で歯科医師として診療・治療に10年以上携わる

学習内容	専門基礎分野の解説、標準テキストの内容、自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準ﾃｷｽﾄ改定第10版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	適宜小テストを実施

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	炎症	定義・原因・分類に沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
2	免疫	防御機能・免疫の分類・免疫の流れに沿って復習し、自己の理解度を上げていくことが出来る。
3	感染、生化学	感染症分類・TCAサイクル・血液の分類・静止電位と活動電位
4	代謝系	糖尿病について
5	泌尿器系 酸塩基平衡	ネフロンについて、アルカローシス・アシドーシス
6	中毒	中毒の原因・種類 自己免疫疾患など、学生の苦手分野の総復習

科目名	総合救急医療Ⅲ			必修/選択	必修	授業形式	講義
【英】	General Emergency Medicine Ⅲ			総時間数	30	単　位	総合救急医療Ⅲ すべてで10
学　年	3	学　期	後期	曜　日	期間中随時	時　限	1.2.3.4

担当教員	金村　諭司 喜代平　要一	実務者経験	32年の消防経験(H7.救急救命士)挿管・薬剤認定 29年の消防経験(H13.救急救命士)挿管・薬剤認定

学習内容	過去の国家試験問題の解説、標準テキストの内容から作成した問題の自己学習、学生の疑問点を解説
到達目標	国家試験合格のための知識を習得

準備学習 時間外学習	該当内容の予習・復習が必要
使用教材	救急救命士標準テキスト11版、過去の国家試験問題、ほか。
留意点 備　考	

成績評価	国家試験模擬試験

回	授業計画【テーマ・内容･目標】	
1	第1回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
2	第1回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
3	第2回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
4	第2回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
5	第3回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
6	第3回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
7	第4回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
8	第4回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
9	第5回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
10	第5回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
11	第6回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
12	第6回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
13	第7回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
14	第7回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
15	第8回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
16	第8回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
17	第9回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
18	第9回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
19	第10回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
20	第10回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
21	第11回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
22	第11回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
23	第12回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
24	第12回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
25	第13回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
26	第13回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
27	第14回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
28	第14回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど
29	第15回模試解説	模擬試験問題の疑問点の解説、標準テキスト復習
30	第15回模試解説	標準テキストをもとに復習及びグループワークなど